

「自然から学ぶ」

どこの国の文化・政治にしてもその創造主は人間です。それぞれの国の慣習や文化の土壌は、その国の自然や風土との関わりから生まれ、培われてきました。その大切な自然が破壊され、かかわりが失われてきていることは、先人が築いた文化・政治が歪んできており、望ましい営みを次代に引き継いでいくことが困難になってきていることでもあります。

幼児期から自然に触れ、四季折々に見せるダイナミックな変化から培われる感性や、変化の段階で見せる自然の厳しさ、それと対峙することによる苦しさ、それに向かっていく積極性、そして時には挫折感を抱くこともあります。

幼児期はこのようなことを知識的に学ぶよりも、体験を通して学んでいくことにより「依存から自立・自律」へと成長を遂げていきます。自然と調和して生活・文化を形成してきた先人達との交流ができる環境を構成していくことも大切な役割と思っています。その役割を通して「自立・自律から依存」に流れがちな高齢者にとってもその速度が薄まってくるものと思われれます。

幼児の保育も高齢者の支援も、従事するものにはその高い見識と専門性が要求され、そして責任が伴ってきます。私達はその両方に従事できる恵まれた環境のもとにあり、そこで学びえた文化を次代へと継



世田谷いちい保育園
保育（教育）目標

心豊かに

たくましく

やさしく

保育の特色

『自然から学ぶ』という設立の理念のもとで、「子どものありのままを受け入れる」「子ども自身が持っている、自ら伸びる力を信じる」「保育者と子どもと一緒に園生活をつくる」ことを、保育者の姿勢として大切にし、『子どもに視点を置いた保育』を保育方針の柱にしています。

幼児期の子どもには、遊びが大切な学習の場であり、遊びの体験を通して成長・発達に必要な学びを得ていくことを大事にしています。保育園は養護と教育を一体的に行なうことが特性となっていますが、養育・教育・保育の視点から、0歳から6歳までの子どもの成長過程を見通した指導計画を作成し、中でも3歳児以上については、幼児教育という視点から保育を行なうことを大事にしています。

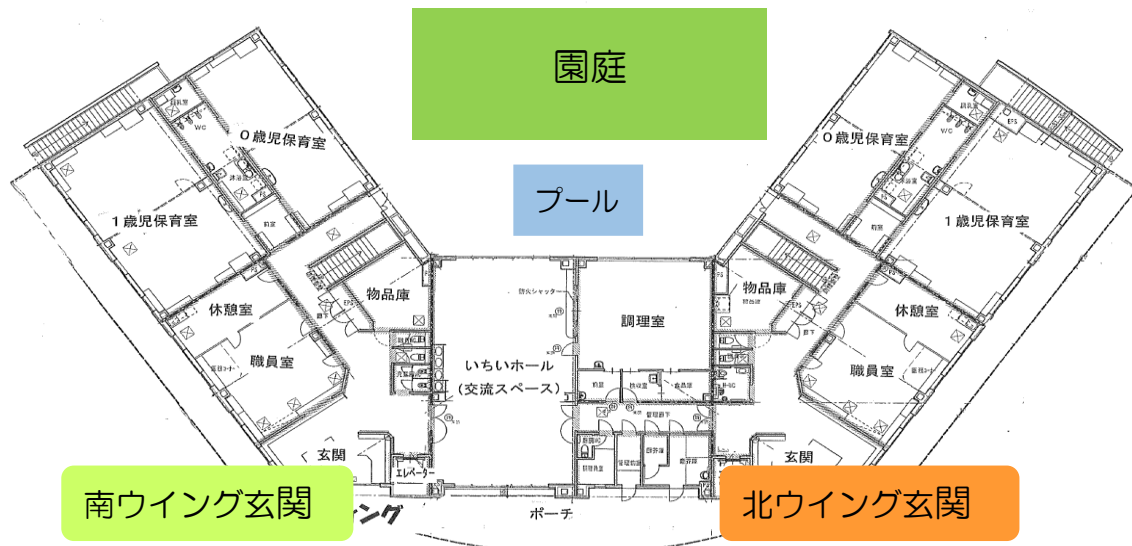
また、乳幼児期の保育（教育）とは、子どもたちの内面を育てることが一番大切になりますので、いろいろな遊びや活動を通して、自分の周囲にいる人に優しさや思いやりの気持ちをもつ「心情面」、困難に立ち向かい克服する力や様々な自分からに挑戦する「意欲面」、社会生活に必要な知恵（話し合い・協力・工夫・規律など）「態度面」を培うことを目的に保育を行ないます。

園の概要

名 称	社会福祉法人水の会 世田谷いちい保育園
開園年月日	北ウイング 平成 27 年 11 月 1 日 南ウイング 平成 28 年 4 月 1 日
所 在 地	東京都世田谷区弦巻 5 丁目 1 0 - 2 2
定 員	各 1 2 9 名
開 園 時 間	月～土 午前 7 時 1 5 分～午後 8 時 1 5 分 (午後 6 時 1 5 分～8 時 1 5 分 延長保育)
受 入 年 齢	産休明け(生後 57 日目)～就学前児童
休 日	日曜・国民の休日・年末年始(12 月 29 日～1 月 3 日)
職 員	園長・主任保育士・保育士・栄養士・看護師
年 間 行 事 (予 定)	入園お祝い会 誕生会 避難訓練 健康診断 運動会 保育参観日 個人懇談会 遠足 発表会 お別れ会 卒園式 など

園舎案内図

1 階



2 階

